病害虫対策資料第 15 号

佐農技防第641号
令和8年10月29日

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

イチゴのハダニ類の防除対策の徹底について

イチゴの本圃でハダニ類の発生が多くなっています。今後、さらに増殖し、被害を生じるおそれがありますので、下記を参考に防除対策を徹底するよう、生産者への指導をお願いします。

記

1．発生状況

10 月 19～22 日に実施した定期調査におけるハダニ類の発生圃場率は 62.5%、発生株率は 15.0%（平年 6.7%、前年 3.8%）であり、平年よりやや多い（図 1）。

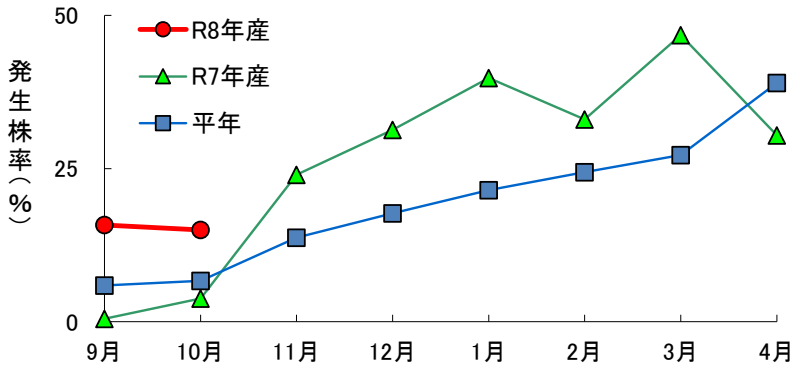

図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2．今後の気象

福岡管区気象台が 10 月 29 日に発表した九州北部地方の 1 か月予報では、気温は高いと予想されており、今後、さらに増加するおそれがある。

3．防除対策

1）多発すると密度の抑制が困難になるため、**早期発見・早期防除**を徹底する。

2）**天敵を活用する際は、導入時にハダニ類の密度が高いと十分な防除効果が得られないため、あらかじめ有効薬剤でハダニ類の密度を 0 頭レベルに抑えた後に放飼する。**
なお、**天敵導入後の防除には、天敵への影響が小さい薬剤を選択する**（表 1）。

3）ハダニ類が寄生する**下位葉や葉裏**に薬液が届くよう、散布前に古葉を除去し株全体にかかるよう十分量を丁寧に散布する。

4）薬剤抵抗性の発達を防ぐため、異なる系統の薬剤による**ローテーション散布**を行う（表 1）。抵抗性発達のおそれが少ない**気門封鎖剤も活用**する。

5）薬剤の効果は圃場によって異なるため、散布後は必ず効果を確認する。

6）農薬の選定にあたってはミツバチへの影響が小さい薬剤（表 1）を選択するとともに、散布前に巣箱を圃場外に持ち出す。

7）薬害防止のため、曇雨天が続く時期の過度な散布は避ける。また、散布後は適切に換気を行い、薬液が速やかに乾くよう管理する。

表1. 県内のイチゴから採集したナミハダニに対する補正死虫率（農業試験研究センター）

薬剤名	系統（IRAC）	供試濃度（倍）	県内5圃場の補正死虫率(%)[1]				（参考）	
			平均	最低	～	最高	天敵への影響[2]（ﾁﾘｰﾐﾔｺｶﾌﾞﾘﾀﾞﾆ）	ﾐﾂﾊﾞﾁへの影響日数[3]
アファーム乳剤	6	2000	**83**	66	～	100	×影響あり	2日
コロマイト水和剤	6	2000	**3**	0	～	6	×影響あり	1日
マイトコーネフロアブル	20D	1000	**69**	20	～	100	○影響少ない	1日
ダブルフェースフロアブル	21A+25B	2000	**41**	17	～	68	×影響あり	1日
スターマイトフロアブル	25A	2000	**38**	9	～	87	○影響少ない	1日
ダニコングフロアブル	25B	3000	**34**	1	～	100	○影響少ない	1日
グレーシア乳剤	30	2000	**100**	100	～	100	×影響あり	1日
ダニオーテフロアブル	33	2000	**100**	100	～	100	○影響少ない	1日

1）供試個体群は2020～21年に県内イチゴ5圃場から採集し、インゲンマメ葉上に産卵されたナミハダニの卵に対して薬剤を処理し、未ふ化卵、死亡虫、生存虫を計数し、補正死虫率を求めた。
補正死虫率＝（水処理区の生存率－薬剤処理区の生存率）／水処理区の生存率×100

2）メーカー資料を参考に作成。グレーシア乳剤については、カブリダニ類への影響期間が長いため注意する。その他薬剤を含めた天敵への影響の詳細については、日本生物防除協議会ホームページ（http://www.biocontrol.jp/Tenteki.html）を参照する。

3）県総合防除計画「病害虫防除共通資料」から抜粋。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター　病害虫防除部
〒840－2205　佐賀市川副町南里1088
TEL　(0952)45－8153　FAX　(0952)45－5085
Mail　nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html
病害虫総合防除計画掲載アドレス
https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html

農技防ｾﾝﾀｰ

総合防除計画